

第3節 白石構内(白石遺跡)の調査

1. 教育学部附属幼稚園遊具設置工事に伴う立会調査

に伴う立会調査

調査地区 白石構内幼稚園北側中庭

調査面積 0.35㎡

調査期間 平成24年10月23日

調査担当 横山成己

調査結果

教育学部より、白市地区に立地する附属幼稚園に新たに遊具(シーソー)を設置したいとの相談が寄せられた。

設置予定地は、園内北部中庭の池の南隣りであり、掘削規模は70cm×50cm×深度40cmと狭小なものであった(図66)。平成21年度に実施した池の改修工事に伴う立会調査では、地山と見られる黄色粘土層^{註1}を切り込む正確不明の落ち込みが確認されたため、慎重を期し工事立会にて対応する事となった。

調査の結果、表土下は造成土であり、造成土下に構造物の基礎と見られるコンクリートが確認された(図67、写真101)。立会調査に立ち会った園職員に尋ねたところ、「今回開発地のあたりには過去に教育学部川口政宏教授(当時)から寄贈されたオブジェが存在していた」とのことであった。オブジェ設置工事の記録は当館には存在しないことから、文化財保護法の手続きなしに実施されたものと思われる。埋蔵文化財包蔵地内での開発計画の手続きを学内に周知させ続けることの難しさを痛感する一件であった。

【註】

1) 横山成己(2013)「教育学部附属幼稚園園内中庭池改修整備工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報7-平成21年度-』, 山口

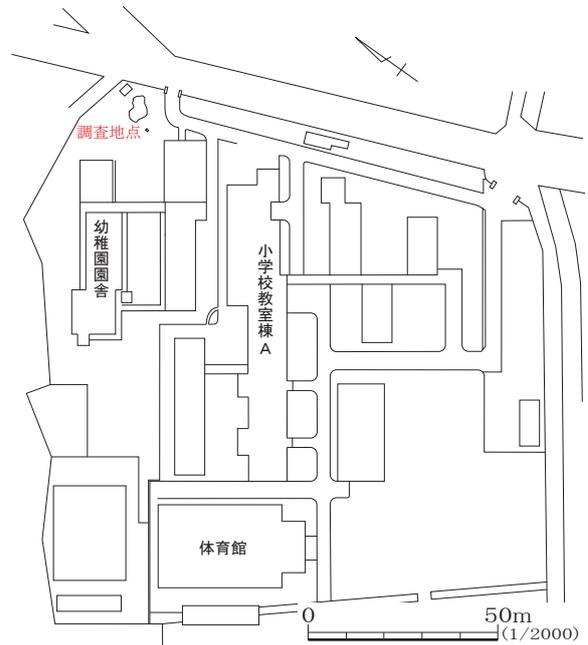


図 66 調査区位置図



写真 101 土層断面 (南から)

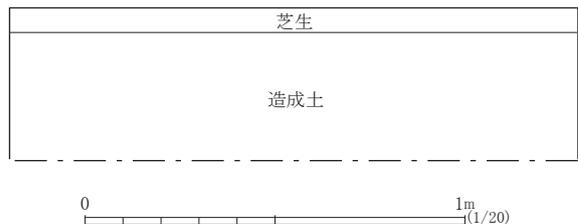


図 67 土層断面柱状図

2. 教育学部附属幼稚園園舎テラス取設工事に伴う立会調査

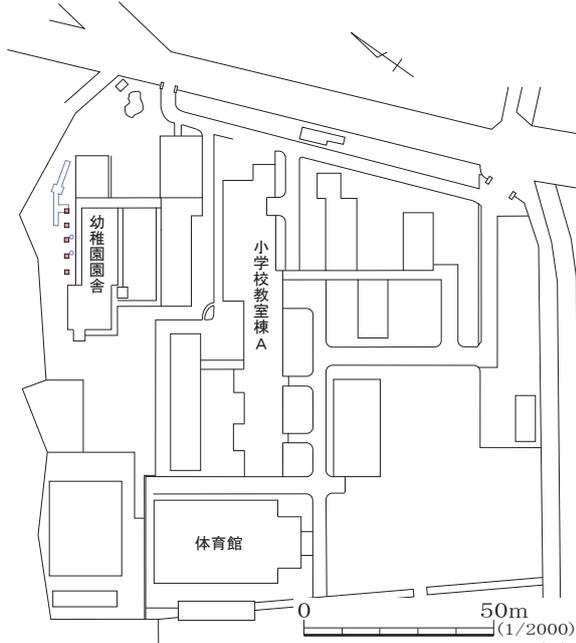


図 68 調査区位置図

調査地区 白石構内幼稚園園舎北西側空地

調査面積 7.9m²

調査期間 平成25年3月13日

調査担当 横山成己

調査結果

教育学部附属幼稚園園舎北西側空地にテラスを取設する工事が立案された(図68)。150cm×150cm×深度50cmの基礎が5箇所^いに設ける計画であったが、計画地に近接して実施された既往の発掘調査において、弥生土器および土師器を包含する古墳時代前期の河川が確認されている事から、工事立会を実施する運びとなった。

実際の工事においては、掘削深度は30cmであり、表土下の造成土内にとどまった(図69、写真102)。教育学部附属幼稚園1期園舎は昭和47年(1972)の竣工であり、老朽化が著しい。近い将来の大規模改修も視野に入る事から、機会があるごとに立会調査を実施し、地下の情報収集を行う必要がある。

【註】

- 1) 古賀真木子・河村吉行(1991)「亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報IX』,山口



写真 102 基礎掘削状況 (北東から)

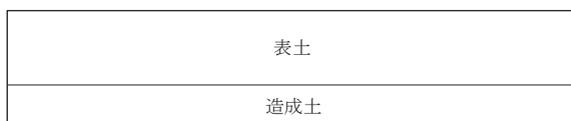


図 69 土層断面柱状図

3. 教育学部附属山口中学校看板表示設置工事に伴う立会調査

調査地区 白石構内山口中学校東側進入路

調査面積 0.6㎡

調査期間 平成24年8月24日

調査担当 河田徹也(施設環境部)

調査結果

教育学部より、附属山口中学校の看板を新設する工事計画が提出された。当初の工事計画では、テニスコートの東側道路沿いに看板を新設すること、工事立会での対応が埋蔵文化財資料館専門委員会にて承認され、文化財保護法の手続きも行ったが、着工直前に設置場所が進入路入口に変更され(図70)、既設の基礎を取り除き同所に再度基礎を構築するという変更が行われた。

変更後の工事内容であれば埋蔵文化財保護対応は慎重工事が妥当と判断されるが、着工直前の工事位置および工法の変更であったため、本学側の工事責任者である河田徹也副課長に工事立会を代行していただいた。

掘削深度は100cmであり、造成土内にとどまっている旨報告を受けた(図71、写真103)。

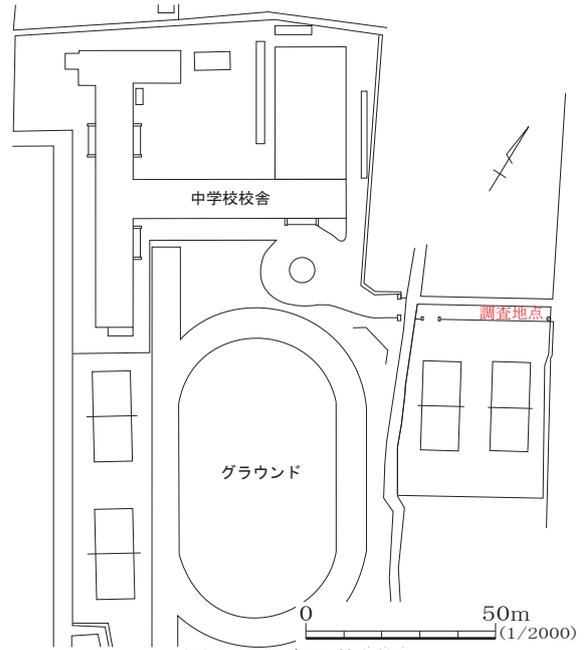


図70 調査区位置図



写真103 調査区西壁土層断面(東から)

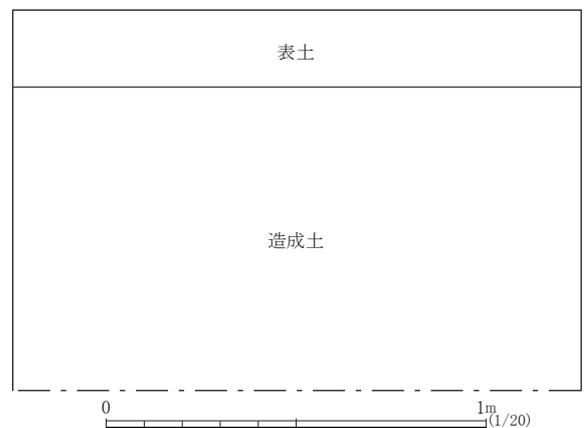


図71 土層断面柱状図

4. 教育学部附属山口中学校テニスコート防球ネット嵩上げ工事に伴う立会調査

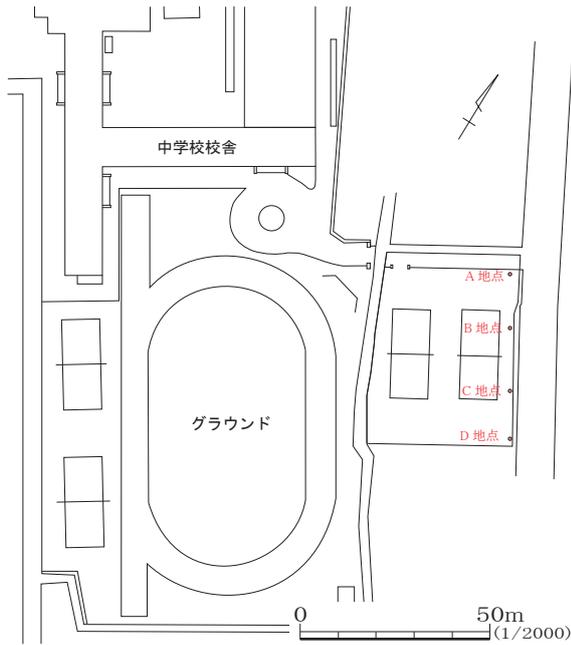


図 72 調査区位置図

調査地区 白石構内山口中学校テニスコート東側

調査面積 4.8m²

調査期間 平成25年3月27日

調査担当 横山成己

調査結果

教育学部により、白石構内附属山口中学校のテニスコート東側(公道側)防球ネットを更新する内容の工事計画が立案された。地下の掘削に関しては、防球ネットの支柱4箇所(図72)に対し、ボーリングで約200cm掘削するとの計画であった。既往の調査例もなく、工事計画地周辺の地下の状況は不明確であったため、ボーリング後に立会調査を実施する運びとなった。

調査においては手が届く範囲で断面精査を行ったが、造成土が厚いため地下の様相を確認できなかった。唯一D地点で現地地表下80cm地点に暗褐色粘土層らしきものが確認され、以下の明黄褐色粘土が地山である可能性が高いと推定された(図73、写真104)。山口中学校敷地では、平成19年度以降発掘調査が実施されておらず、新たな知見が得られていない状況にある。小規模な開発工事でも、工事立会を繰り返す事で地下の状況を確認する必要がある。



写真 104 D地点土層断面(西から)

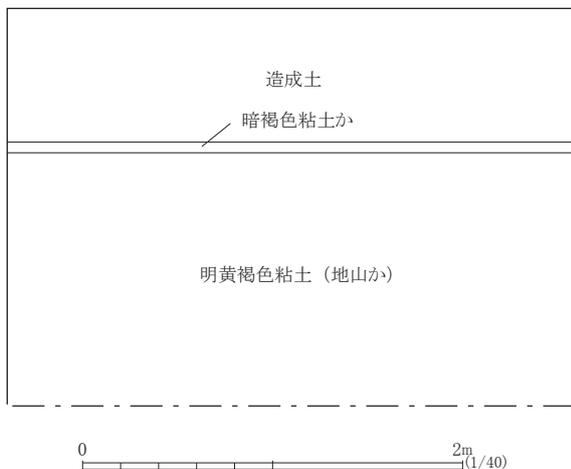


図 73 D地点土層断面柱状図

5. 教育学部附属山口中学校武道場新営植物移植工事に伴う立会調査

調査地区 白石構内山口中学校バレーボール場

調査面積 3㎡

調査期間 平成24年3月12日

調査担当 横山成己

調査結果

平成25年度に教育学部附属山口中学校に武道場が新営されることとなり、予備発掘調査が実施される運びとなったが、開発予定地の樹木を事前に移植したいという要求があり、工事立会にて対応する事となった。

移植予定地は昭和61年(1986)に実施された污水排水管布設工事に伴う試掘調査の第4トレンチに近接している(図74)。第4トレンチの調査成果では、造成土直下が地山(暗緑灰色粘土)とされたが、その下位に暗オリーブ灰色細砂、さらに暗灰色粗砂が確認されている事から、それらの層が真に地山であるか確認する事を目的とした。

調査の結果、現地表下130cmの地点に旧耕土と見られる①暗灰色弱粘質土(層厚10cm)、その下位に旧床土と見られる②黄灰色弱粘質土(層厚10cm)、遺物包含層と見られる③暗灰褐色弱粘質土(層厚10cm以上)を確認した(図75、写真105)。

③層は湧水が著しく、埋没河川(谷)の埋積土である可能性が指摘される。この③層が昭和61年に地山とされた暗緑灰色粘土と同一である可能性が高い。いずれにせよ、平成25年度実施予定の武道場新営に伴う予備発掘調査で明らかとなるであろう。

【註】

1) 杉原和恵(1987)「亀山構内教育学部附属学校污水排水管布設に伴う試掘調査 教育学部附属山口中学校部分の調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報VI』,山口

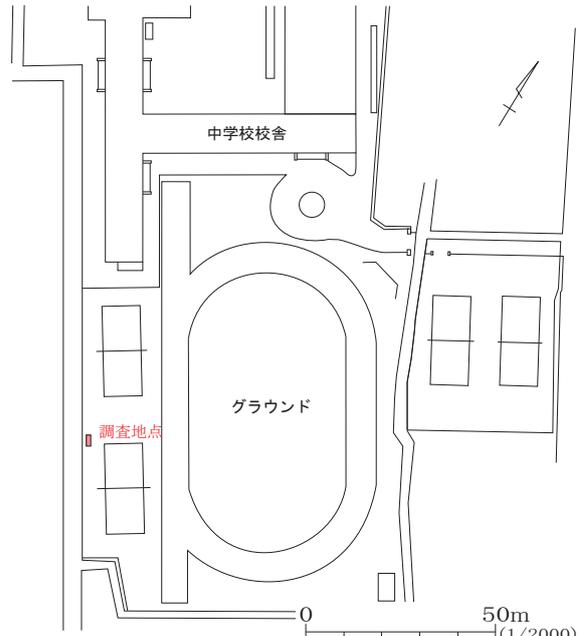


図74 調査区位置図



写真105 調査区北壁土層断面(南から)

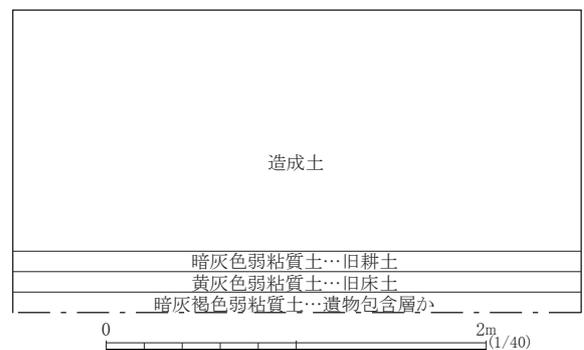


図75 土層断面柱状図